

福生三中だより

令和5年6月30日発行 No.4

学校教育目標

- 1 よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒
- 2 ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒
- 3 責任を果たし、みんなのために働く生徒
- 4 美しいものを求め、豊かな心をもつ生徒

校訓 礼 節

「高めたい自尊感情」

～学校経営方針より～

校長 植村 多岐



中高生にとっては、昔も今もアイドルグループ全盛の時代。かつての国民的グループと言えは SMAP が有名ですが、そのヒット曲に「世界に一つだけの花」という歌があります。その中に「小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから NO.1 にならなくてもいいもともと特別な Only one」というフレーズがあります。「世界中にたった一人の君は、その存在そのものが素晴らしい。人と比べることなく、自分らしく精一杯生きて行こう！」というメッセージが、当時の人の共感を呼んだのだと思いますが、このように自分で自分のことを「かけがえのない存在、価値ある存在」としてとらえられる気持ちを「自尊感情」といいます。調査によると日本の若者の「自尊感情」は、国際比較で最低水準だそうです。その上三中生は、毎年行われている全国や都の調査「将来の夢や目標をもっている」「自分には良いところがある」という「自尊感情」に関する質問項目では、肯定的な評価が平均を下回り、課題としてとらえざるを得ない現状です。

この状況からも本校では、自尊感情を高める教育を重視し、全ての活動の中で、生徒が「他者から認められ、感謝される体験」をより多くさせ、そのことで「自尊感情」を高めたいと考えています。普段の授業はもちろんのこと、先日の体育祭や次の音楽会、修学旅行、地域でのボランティア等も大切に、そのために力を入れたい取組の数々です。

思春期に入り個人差はありますが「どうせ、自分なんか・・・」と気持ちが揺れ、自信が失われがちな生徒たちに“こんな自分でも良いところがあるよ！自分も捨てたもんじゃないぞ！”という自分の良さ（時に、自分でも気が付かなかった自分の良さ）を気付かせ、高まった「自尊感情」から少しでも自信や意欲へとつなげたいと思っています。

子供の成長は、乳幼児期では、保護者からたっぷり無条件の愛情をもらうことにより、人を信頼し自分を信頼する力となります。そして、小学生では行動範囲も広がり、様々なことができるようになり、それを褒められることによりさらに意欲が高まると言われています。一方、中学生は褒められる気恥ずかしさが芽ばえはじめますが、今まで以上に自分の価値や存在を分かちたい欲、認めて欲しいという感覚が強くなり、この充実感が、前向きに生きる上でのエネルギーにつながることをよくあります。このように、「自尊感情」は生徒個人の力だけで高めることには限界があります。家庭、学校、地域等からの様々な働きかけやより良い人間関係の中で確実に高まり、育ちます。

先の見えない時代と言われています。どんな予測不可能な社会でも「自分は大丈夫」と自分を信じ、「自分の人生を主体的に切り拓いていく生徒」を「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」を使命に、本校の教育を進めてまいります。

表彰

5/28 第43回福生市バドミントンシングルス大会

男子シングルス2部 準優勝 篠原 仁太郎さん
男子シングルス3部 準優勝 長野 李央斗さん
男子シングルス3部 第3位 久住呂 康介さん
女子シングルス3部 第3位 古谷 萌果さん

おめでとうございます!



卒業生から話を聞く会

6月10日(土)2校時に3年生の総合的な学習の時間に卒業生4名から話を聞く会を行いました。私立から国立音楽大学付属高等学校・大竹高等専修学校、都立から東大和高等学校・八王子桑志高等学校から来ていただき、各学校の特徴、高校生活、勉強の仕方等、後輩に向けてメッセージを送ってくれました。



避難訓練・引き渡し訓練

6月10日(土)3校時に避難訓練後、引き渡し訓練を行いました。この日は学校公開をしていたので参観中の保護者の皆様にも避難訓練をしていただき、その後、引き渡し訓練に参加していただきました。御協力ありがとうございました。

七五三挨拶運動

6月15日(木)朝、毎年恒例の七小・五小・三中の児童・生徒と教職員、CS委員、地域ボランティアの皆様が田園通りや校門に立ち、挨拶運動を行いました。爽やかな挨拶が飛び交いました。

